

今福小学校で続けられている加藤先生の出前授業

近頃は「これまでに経験したことがないような豪雨の恐れがあります」といったニュースを耳にします。異常気象の原因は地球の温暖化にあると言われて久しくなりましたが、日本が誇るスパコン富岳をもってしても間違いないようですので、この異常事態が今後も続くことは疑いがありません。

今日では殆どの高校の授業から地学が消え、地球のことを知るのはプラタモリくらいになってしまいましたが、災害の増加が危ぶまれる現状にあって地球を知ることの大切さは皆がわかっています。それで、小学6年生の理科の教科書には、大地のつくりの項で地層のでき方や特徴について、大地の変化の項で地震や火山、災害について、豊富なイラストや写真をつかって何ページにもわたり説明がなされています。しかし、断層のでき方などその内容はかなり高度なため、地学の知識が乏しい先生では教科書をなぞるだけの授業になってしまうのが悩みの種だそうです。

「今福小学校で地球のことを教える先生を探している」との口コミ情報が島根県技術士会に持ち込まれたのは5年前のことです。それを益田市在住の加藤芳郎氏（応用理学部門）が引き受けてくださいました。生徒は6年生の10名ほどで、一時間半の授業を2日にわたって行います。校長や担任の先生はその後変わりましたが、加藤先生の出前授業はいまや小学校の恒例行事となっています。

初日の授業は曇が浦での野外学習です。この海岸には全面露頭した海食面が広がっており、地層や断層を知るにはもってこいです。また、化石の宝庫ですので生徒の興味は失せません。引率するのは若い先生で、生徒は加藤先生の話を聞きながら、見て触れての勉強にとっても熱心です。それでも、「帰りのバスの時間があるのでそろそろ戻りましょう」と加藤先生が皆を促すと、「ええ～、もぉ～」と愚図ったのは引率の先生でしたので、一番熱心なのは彼女だったかもしれません。



断層露頭を説明する加藤先生

一週おいて、二日目は教室での授業です。前半は石の種類と特徴、後半は災害について教えます。いずれにおいても身近な場所を例えにして内容をわかりやすくする工夫がなされています。ただ、義務教育のカリキュラムですので教えるポイントを押さえながら授業を進めなければならないので、加藤先生も脱線を控えています。そうしたなかで液状化の実験は盛り上がります。これは毎年テッパンでウケるそうです。緩詰め（緩詰めの砂の入ったビーカー）に水を流し入れ、ビーカーの腹を叩くと砂の中に埋めてあった発泡スチロール（水に浮かないよ

う錘りが貼り付けてある)が浮きあがります。これを踏まえ、液状化により浮きあがったマンホールの地震被害写真を見せると生徒から驚きの声が上がります。加藤先生は「彼を知り己を知れば百戦危うからず」と孫子の言葉を紹介し、知ることの大切さを伝えて授業を締めくくりました。

このような出前授業は教育委員会を通してではなく、校長と担任の判断で催されるものだそうで、「先生がすべてに通じているわけではないので、知識のある人に教えてもらうのが一番だ」とは校長先生の持論のようです。「小さい小学校だからこそできること」と謙遜されますが、他にも「ユニクロの社長に来てもらった」とかとか、出前授業が盛んな様子が窺われました。今福小学校卒業生の将来が楽しみです。

(長嶺元二)



液状化の実験を教える加藤先生